

第4回鶴岡市地域公共交通活性化協議会兼鶴岡市地域公共交通会議 会議概要

1 日時 令和8年1月23日（金） 午後3時～午後4時

2 場所 鶴岡市役所 6階 大会議室

3 出席者

（委員）

鶴岡市副市長 伊藤 敦（会長）

庄内交通㈱ 代表取締役社長 村紀明（副会長）

（一社）山形県バス協会会長 村紀明

（一社）山形県ハイヤー協会 専務理事 山家庸彰（代理出席・オンライン）

（一社）山形県ハイヤー協会鶴岡支部支部長 柿崎裕

山形県交通運輸産業労働組合協議会 庄内交通労働組合副委員長 佐藤豪（代理出席）

国交省東北地方整備局酒田河川国道事務所鶴岡国道維持出張所長 畠山貴博（代理出席）

山形県庄内総合支庁道路計画課 課長補佐 生方昌樹（代理出席）

東北運輸局 山形運輸支局 運輸企画専門官 山田翔太（代理出席・オンライン）

鶴岡商工会議所 理事・事務局長 七森玲子

鶴岡市身体障害者福祉協会 会長 佐藤満子

JA 鶴岡女性部 会長 石塚公美

DEGAM 鶴岡ツーリズムビューロー 主任 設楽樹

藤島町内会長連絡協議会副会長 東海林良哉

温海地域自治会会長 会長 五十嵐収一

（オブザーバー等）

庄内交通㈱ 専務取締役 高橋広司

庄内交通㈱ 乗合バス事業部 部長 中村美穂

株式会社ケー・シー・エス東北支社 コンサルティング事業部 菅原直樹

（事務局）

企画部 部長 上野修

企画部地域振興課 課長 鈴木泰行

企画部地域振興課 主査 渡部久美子

企画部地域振興課 専門員 下本敬己

藤島庁舎総務企画課 地域まちづくり企画調整主査 村田喜栄

羽黒庁舎総務企画課 課長 板垣誠

羽黒庁舎総務企画課 主査 齋藤義徳

櫛引庁舎総務企画課 主査 大江山守

朝日庁舎地域づくり推進課 地域まちづくり企画調整専門員 齋藤富喜

朝日庁舎地域づくり推進課 主事 近野辰夢

4. 報告 進行：鈴木地域振興課長

(1) 庄内交通 一般路線バスの運賃改定申請について

報告資料 1

- 庄内交通より資料に基づき説明。

路線バス運賃の変更等について、情報提供があった。

⇒委員より質問・意見はなかった。

5. 協議 進行：伊藤会長

(1) 鶴岡市地域公共交通計画（令和 8～令和 12 年度）案について

協議資料 1・計画案

- 事務局より資料に基づき説明。

⇒主な意見

- 計画の概要を拝見したが、特に無理な計画ではないという理解をしているので、着実に一步一步、いきなりすべてのものが満足になるということではないと思うが、計画を進めながら、検証も同時にやっていくということが必要だと思う。
- ライドシェア等とか自動運転とかで、計画の方にも載せていただいているが、弊社の方でもライドシェアの導入に向けて取り組んでおり、本格運行する予定。これも鶴岡市の援助なしでは、なかなか続けていくことが無理なのかなと思っている。計画の方にも載ってきているので、よろしくお願いいたします。
- 自分たちの生活の中でということ言えば、三瀬地内の 7 号線のところにバス停があるが、なかなか遠いと感じる。今のところ自力で車を運転できる状況ではあるが、やっぱり車を運転できなくなったら私たち買い物難民だよねっていうことが、今自分たちの中ではあって、のちのち、どうしていったらいいんだろうねっていうような話は出ている。できれば三瀬の中に駅までバスが通ってくれるといいね。なんていう話もしている。
- 私はバス停のすぐ近くなので非常に重宝している。デマンドタクシーを使っているが、10 人乗りで運転士さん含めて私の 8 人だった。次のバス停で 2 人連れ乗ろうとしたが、残念ながら乗れなかったという場面で、すぐ運転手さんが電話をして、後続でまたタクシーが来ますからっていうふうに懇切丁寧に説明してくれて、非常によかった。
計画案の 34 ページの下の方があるが、その免許返納者数の目標値 665 人以上ってなっていますがこれは、まだ待っててもこういう人数になるのかそれともいや 665 人に免許返納させようかというスタンスなのか教えていただければありがたい。
⇒この免許自主返納者の考え方につきましては、自主返納される方が 660 ぐらいになるのではないかと推計し、目標値としている。健康で安全に運転ができる方に返納を促すものではないので、ご理解いただきたい。

- 伊藤会長が、計画案について、承認いただける方の挙手を求めたところ、挙手全員により承認された。

(2) 羽黒地域市営バス 運賃改定について 協議資料 2

- 事務局より資料に基づき説明。
⇒委員から質問や意見はなかった。
- 伊藤会長が、計画案について、承認いただける方の挙手を求めたところ、挙手多数により承認された。

(3) 朝日地域公共交通 実証運行延長について 協議資料 3

- 事務局より資料に基づき説明。
⇒主な意見
 - 昨年 7 月 1 日から実証を始めて、どのような状況か簡単に説明してほしい。
⇒利用者数は、7 月から 12 月までの 6 ヶ月間で、朝日バスの上田沢線は延べ 278 名、大網線は延べ 498 名となっている。この朝日バスは、庄内交通の路線バス廃止に伴う代替となっている。利用者数の現状として、利用者数は路線バス利用者の半数程度になっているが、上田沢線は、鶴岡市内の方に向か早朝の乗継ぐための便になるが、1 便当たり、2～3 名程度の利用があり、大網線は 3～4 名程度の利用がある。利用人数は少ないが、需要のある便となっている。もう一つのデマンドカーは、こちらも朝日地域を南の部分と東の部分の二つに分けた、南部線と東部線の 2 路線ある。南部は、利用者人数が延べ 306 名、東部線は、延べ 238 名となっている。こちらは市営バスの代替えとなるが、利用者数的には、若干の減少している。減少の理由は、デマンドカーの利用には、会員登録が必要だが、市営バス利用者の会員登録が最初うまくいかなかったことから 7 月から 9 月の利用者数が少なかった。10 月以降は利用者数が伸びてきている。
 - 朝日地域は、今年度六十里越街道の事業など、庁舎の方とも協力し実施させていただいてる。朝日方面の湯殿山、今の時期はスキー場とか、そういった方面の需要はあるものと思うので、公共交通についての問い合わせを案内所でいただく。路線バスまでは調べられるが、その先の部分、どうやっていくのかな、わからない方もいると感じている。もちろん、そもそも地域の足としてというところが大きいとは思いますが、利用者を広げていけるような形で事業が進んでいくとよろしいのかなと思う。私自身朝日の方のバス利用する機会がないもので、ちょっとイメージがきちんとできていないところもあるが、ぜひ進めていただいて、地域にまず定着してということが重要なのかなと思って伺った。
 - 上田沢線は大鳥方面に行く方の路線と同じ、同じ方向に違う種類のバスを走らせていくという部分、将来ともずっと続けていくのかどうかその辺ちょっと疑問が残るはないのかなという風に感じた。将来的にどのように考えているのか。
⇒あさひバスは、以前あった庄内交通上田線でしたが、その前は大鳥線とだった。上田沢よりも大鳥がさらに奥にあるが、人口減少が進んでいく中で、通学する生徒がいなくなり、庄内交通の路線バスが大鳥から朝日庁舎まで短縮されたので、代替えとしてあさひバスの上田沢線を運行している。現状としては、中学生も小学生も、上田沢に少ないが何名かいるので、しばらくはまず運行を継続して

いく方向と考えている。いろいろなご意見はある中で、人口減少の進行状況も含めながら、検討していきたいと考えている。

- 延べ人数の割に、その時間体によっては人数が2人でも3人でも、バスを運行してるということを聞き、地域としては助かってる方がいるということと、それを運行してくださってるっていうところは、ありがたいものだなあと思った。

- 伊藤会長が、計画案について、承認いただける方の挙手を求めたところ、挙手全員により承認された。

(4) その他

- 事務局、その他団体より提案はなかった。

6. その他 進行：鈴木地域振興課長

- 高齢者等外出支援事業（ゴールドパス）・高校生等通学費支援事業について 資料なし
事務局より、庄内交通の一般路線バスの運賃改定により定期券額も改定されることから、両事業の見直しを検討しており、具体的な内容は次回協議会で報告する旨の説明がされた。
⇒質問や意見はなかった。

- 今後のスケジュール
2月上旬中旬～3月上旬中旬：パブリックコメント
3月27日：第5回協議会開催

7. 閉会

以上

第4回鶴岡市地域公共交通活性化協議会兼鶴岡市地域公共交通会議
運賃に関する協議 会議概要

1 日時 令和8年1月23日（金） 午後4時5分～午後4時15分

2 場所 鶴岡市役所 6階 大会議室

3 出席者

（委員）

鶴岡市副市長 伊藤 敦（会長）

東北運輸局 山形運輸支局 運輸企画専門官 山田翔太（代理出席・オンライン）

藤島町内会長連絡協議会副会長 東海林良哉

温海地域自治会会長 会長 五十嵐収一

（説明者）

庄内交通(株) 専務取締役 高橋広司

庄内交通(株) 乗合バス事業部 部長 中村美穂

（事務局）

企画部 部長 上野修

企画部地域振興課 課長 鈴木泰行

企画部地域振興課 主査 渡部久美子

企画部地域振興課 専門員 下本敬己

4. 報告 座長：伊藤会長

（1）庄内交通 路線バスの運賃の変更等について

資料

○ 庄内交通より資料に基づき説明。

● 金額の変更のタイミングはいつになるのか。

⇒4月1日使用開始分から新料金となる。3月末まで購入した分は、改定前の金額となる。

● 山形運輸支局 山田運輸企画専門官

協議路線と一般路線の両方があり複雑な構造になっているが、東北運輸局へ庄内交通より申請され、それを踏まえての改定となるのでご理解いただければと思う。

○ 伊藤会長が、運賃の変更等について、承認いただける方の挙手を求めたところ、挙手全員により承認された

5. 閉会

以上